

11月18日の作業チームに参加できないため、事例に関する私見を付します。

2011.11.18. 上原久

項目	事例1	事例2	事例3	事例4	事例5	事例6
1 医療保護入院の判断	25歳男性、役場事務員 ①幻聴による迷惑行為 ②母・姉に対する暴力行為の予期	28歳女性、ダイエット ①病状悪化の懸念 ②暴言等の迷惑行為	26歳男性、神様と対話 ①幻聴による迷惑行為 ②入院治療が必要な病状	48歳女性、ゴミ屋敷 ①服薬中断による病状悪化の恐れ ②妄想による近隣への迷惑行為	78歳、アルツハイマー ①入院の必要性を認識できない ②介護環境上BPSDの恐れあり	24歳男性、母が掃除 ①興奮状態が収まらず病状悪化の懸念
2 医療保護入院回避のための支援 ①介入タイミング ②支援内容	①職場での空笑・独語・上司に対する暴言を吐き、自宅待機になったとき。 ②職場の上司がメンタルヘルスに関する知識を持ち、保健所保健師等に相談。	①化粧が歌舞伎役者のように派手になったとき ②B型事業所のサビ管による早期介入(相談支援専門員や保健師に相談)	①転職後の「自分は神様の身代わりである」という発言 ②店長→ハローワーク→保健師または精神保健福祉士に相談	①夫死亡時 ②民生委員や自治会婦人部等による訪問活動	①俳句教室(公民館等で開催?)でのトラブル時 ②公民館職員→包括支援センター→認知症鑑別診断→認知症対応型通所介護等	①任意入院から退院する時 ②自立訓練(宿泊型)の利用
3 退院に必要な状態	上司や母親に対する猜疑心の軽減および病識の萌芽	服薬またはデゴ剤による病状管理が可能になる	迷惑行為の消沈	家事等の生活技能の補填および生活環境の改善	「物を盗まれる」という訴えの消沈	興奮状態の誘因である母親との物理的距離を保つ
4 どのような支援が必要か	①上司に対する助言・指導。 ②リワーク支援の活用。	①彼氏・母親・保健師と一緒に退院目標を設定。 ②PSW または保健師とともに「やせずに美しくなる方法」あるいは「上手な化粧の仕方」を学ぶ。 ③医師・B型事業所サビ管・相談支援専門員・訪問看護を含め、退院計画を具体化。	①訪問看護・就業生活支援センター・自立訓練事業を含めて退院目標を設定する。 ②就職を視野に入れ職業評価を受ける。 ③上記の結果により、B型または就労移行支援→再雇用→ジョブコーチを活用。	①自立訓練(宿泊型)の利用。 ②自立訓練施設の生活支援員・環境担当課・保健師等による住環境整備(ゴミの撤去等)。 ③上記に相談支援事業所・地活センター・訪問介護等を加え、地域定着支援について具体的に検討。		①自立訓練(宿泊型)の利用。 ②日中はデイケア、地活センター等に通い、対人関係技能・軽作業活動等に参加し能力回復を図る。 ③体力がついた段階でB型または移行支援を利用。 ④経過により単身生活を視野に入れた支援を検討する。

\*1は事例の中の「入院を判断した理由」。2、3、4は「理想的な支援」という前提で整理。